

教員採用試験受験における STEAM 教育の活用実践 (中学校国語 受験報告)

田中 龍之介*

1. 受験の概要

筆者が教員採用試験で合格した自治体は山口県、北海道、山形県で、校種は中学校国語科である。STEAM Lab 学生部カリキュラム・マネジメント部門の一員としての活動実績や教育実習の課題解決などで取り組んだことなどを、どのように受験時にアピールし、合格にたどり着けたのか、その体験についてまとめておきたい。

2. 出願にあたって筆者が準備したこと

出願にあたって、筆者が準備したことは大きく分けて三つある。

一つ目は「自己分析」である。

まず、小学生から大学生に至るまでに行ってきた活動と、そこでの自分の役割や意識したことを詳細に書き出した。その中から自分の特徴を見出し、それが現場でどのように役立つのか、イメージする。

例えば筆者の場合、中学時代のバスケット部に所属していた時に長距離走の練習で、全力疾走してチームメイトと競い合いになったことがある。そして、長距離走の練習が仲間たちと切磋琢磨するものになり、チームから駅伝代表選手が自分を含め4人選ばれた。

また高校時代に、有志が集まって実施されたSSHのサイエンスツアーでは、研究機関を見学し、学んだことをチームミーティングで発表する活動があった。そこで筆者は率先して挙手し、発言することで議論の口火を切る役割を買って出た。

ここで述べたのは一部であるが、これらの経験から、筆者の行動の根底にあるのが「認められたい」という欲求であり、そのためには率先して行動できることを見出した。

これは、現場で生徒が未知のものごとにも前向きに取り組むことができる「冒険心」の醸成につながるなど、活かせることは多いと考え、エントリーシートや面接時にアピールした。

以上のように、経験をたくさん書き出す中に、他者とは違った自分の良さが見えることがある。これは、書き出した経験が多ければおおよそ、詳細であればあるほどに見出しやすくなる。だからこそ、早めに準備を進めておく必要がある。一か月や二か月の準備では到底間に合わないであろう。筆者の場合は半年以上の時間を要した。

二つ目は「過去問の分析」である。

自治体によって出題形式は多種多様で、これは一次試験においても二次試験においても言えることである。

筆者は、北海道、山形県、福井県、和歌山県、山口県、香川県、高知県、宮崎県の計8自治体の教員採用試験を受験し、そのうちのすべての自治体で一次試験を通過したため、8自治体すべての一次試験、二次試験の対策を講じた経験がある。

その中で、自治体によって受験内容が大きく異なることを実感した。例えば一次試験においても、国語科の専門教科で漢文を出題する自治体としない自治体があることや、一般・教職教養について、自治体の多くはマーク式の試験を採用しているのに対し、記述式の試験を採用している自治体もある。

二次試験についても、集団討論や集団面接、場面指導、模擬授業など、自治体によって採用している形式が異なる。

したがって、早めに自身が受験する自治体の出題形式を知ることが重要であり、対策を講じるが必要となってくる。

筆者は、教職支援課の全国の過去問をまとめたファイルを記録したディスクを借りて、過去問をプリントアウトしたり、過去問題集を購入して対策を講じた。

教職支援課等の大学の機関には、教員採用試に向けた学習に有用な資料が豊富にまとめられているため、自身に役立つ設備や資料を知っておくことも重要であろう。

過去問を知ることで、勉強する範囲を絞ったり、試験の解く順番をあらかじめ決めておくことができるなど、効率的な学習につながるため、試験勉強を始める時期に、最初に取り組むべきである。

*大阪大谷大学

三つ目は、「すべての経験を自分の糧にすること」である。

筆者は、試験対策を進めるとともに、STEAM Lab の活動を進めていた。

また、特別支援教育の経験を積むべく、実際に発達障害のある子供を支援する授業を受講するなど、教員になるための多くの活動に参加した。

これらの経験は、面接の受け答えにおける引き出しを豊富にするとともに、実際の教育現場でも役立つ。

活動の中には、面倒なものや人間関係が難しくなるものがあるが、それらの経験をどう乗り越えるかが面接官の聞きたいことの一つであるので、何度もそのような経験をすることが有意義であるという自覚を持っておくと、活動の一つ一つで大きな学びを得ることができるだろう。

筆者は上記にあるもののほかにも、日ごろの学習の中で iPad の手書き機能や Apple pencil を用いたり、友人との学習においても、画面のミラーリング機能や Air Drop を用いた共有機能を用いるなど、ICT を意識して利用するなど、面接や教育現場での ICT の活用を意識した学習方法を取り入れていた。

以上の3点は、早めに準備しておく必要がある。

3. 各自治体の特徴

①山口県

まず、山口県のエントリーシートでは、「教員を志望する理由（出願する校種・教科を踏まえて）」、「山口県を志望した理由」、「学校生活で活かしたい得意とする分野（専門的な知識や技能、教科の領域などについて、どのように生かすかを含め具体的に記入）」、「学校教育で活かすことができる経験（ボランティア経験や海外留学経験などについて実績を踏まえて）」の4点を書く必要がある。

具体例として、筆者のエントリーシートの記述内容を挙げる。

「教員を志望する理由（出願する校種・教科を踏まえて）」
225字以内

個別指導塾では「メタ認知」を重視した指導で長期的な見通しを共有しつつ短期的な目標に向き合った結果、生徒に「やればできる」実感が生まれ、全員合格を勝ち取った。教育実習では早めの努力を厭わない「愚公移山の準備力」で、必死で授業準備や教材研究に取り組んだ。その姿勢が積極的な授業参加や協力的環境を醸成し

た。

以上の特徴や経験を活かし、授業や生徒指導、保護者や同僚との協働においても打たれ強く取り組める中学校教員として貢献したいと考え、志望した。

「志望動機（山口県を志望した理由）225字以内」

私の特徴は、自分や周囲に有益と信じて臆せず行動できる「衆目を意識した率先力」にある。

大学では卒業論文で伊勢物語の解釈の探究をするとともに、STEAM Lab 部門長として関連史跡を踏破し ICT 教材の作成を進めてきた。

以上の特徴や経験から、自ら探究できる国語科教材を用いた教育活動で「学ぶ力」を、先駆けとして行動できる冒険心を育み「創る力」を、その中で自らの役割を得て果たす「生き抜き力」を引き出し、山口県の掲げる「3つの力」の醸成に貢献したいと考え、志望した。

学校生活で活かしたい得意とする分野（専門的な知識や技能、教科の領域などについて、どのように生かすかを含め具体的に記入してください。）225字以内

大学の正課の授業として設置されている「特別支援教育指導法演習」では、発達障害児の支援や個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成を他の受講者とチームを組んで行ってきた。この活動の中で、支援者同士の連携の必要性を感じ、相手の困り事を理解するための提案と、求められたことは必ず遂行する行動力で信頼関係を築き、互いの強みを活かした役割分担で効果的な支援に繋がった。

以上の経験を基に、特別支援教育の専門性を活かした家庭・地域との連携や他の先生方との協働する素地としたい。

「学校教育で活かすことができる経験（ボランティア経験や海外留学経験などについて実績を踏まえて）」225字以内

ボランティア団体「あいす・おおさか」では、児童・生徒の自然体験活動や野外炊飯経験で協働するスタッフとして活動した。片付けや掃除などの時間でも、持ち前の「修飾力」で一人一人の良さを見つけて肯定的に関わることでやる気を引き出し、自発的な行動を生み出した。

この経験が PBIS などの理論への関心に繋がり、肯定

的なアプローチから学習意欲の向上や行動変容、規範意識を醸成することを目指して身近な人との関わり方から見直している。

以上に挙げたように、自己分析した内容と経験を書くことで、自分だけが持っている良さをアピールできるとともに、自分が目指す教育が実現することの根拠にもなる。先に挙げた準備が、このような場面で役立つのである。

次に、山口県の試験について、大きな特徴としては、一般・教職教養が記述式であることと、面接試験に2分間の場面指導と、一分間の教員間の関わり方を実演するという2題があることである。

また、山口県の面接における質問は多くはないので、自身の一番アピールしたいポイントを工夫して回答に入れる必要がある。

筆者は、STEAM Labでの経験を話したかったものの、それを話すタイミングがなかったため、反省点が残った。

4. 北海道

北海道のエントリーシートに必要な事項は、「志望動機」、「北海道を志望した理由」、「教科指導、食に関する指導、生徒指導、教育相談、教育実習、各種体験学習等重点的に履修した分野又は専門の教科や領域に関して努力していること」、「生徒指導を進める上で努力したことや、生徒指導に関する考え方」、「生徒指導を進める上で努力したことや、生徒指導に関する考え方」、「自らが持つICTの知識を活用し、授業実践で活かせること」、「長所と短所」と他の自治体と比べると比較的が多い。

筆者の記述内容は次の通りである。

「志望動機」

個別指導塾のアルバイトでは、「メタ認知」を意識し、乗り越えるべき課題を持ち前の「修飾力」で「成果に繋がる一歩」として伝える工夫に繋がるとともに、長期的な視野を意識したスモールステップで短期的な目標を共有した。その結果生徒に「やればできる」実感や信頼関係が芽生え、全員合格できた。以上の特徴や経験から、生徒の学習意欲の向上や行動変容を促せる教員として働きたいと考え、志望した。

「北海道を志望する理由」

自分や周囲に有益と信じて臆せず行動できる「衆目を意識した率先力」で、中学時代のバスケットボール部の練習では長距離走で先陣を切って全力疾走し、競い合いを生み出して駅伝代表に選出されるほどの持久力向上につながった。

北海道の「社会で生きる力の育成」の理念の下で、主体性を引き出す役割分担を通じて生徒一人一人に冒険心を育みたいと考え、志望した。

「教科指導、食に関する指導、生徒指導、教育相談、教育実習、各種体験学習等重点的に履修した分野又は専門の教科や領域に関して努力していること」

大学の正課の授業として設置されている「特別支援教育指導法演習」において、実際に発達障害児の支援や個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成を行った。他の受講者とチームを組んで携わり、保護者との交流を進める中で、子どものニーズに寄り添い支援者間で目標を共有する必要性を学んだ。

「生徒指導を進める上で努力したことや、生徒指導に関する考え方」

教育実習では生徒の無回答・無発言の状況を克服するために、普段から前向きな雰囲気づくりに努めた結果、研究授業では協力的な環境の醸成につながった。大学に戻ってからはPBIS（ポジティブな行動介入と支援）への関心を強く持ち、行動変容を促すアプローチを学んでいる。

「自らが持つICTの知識を活用し、授業実践で活かせること」

STEAM Lab 部門長として卒業研究テーマの『伊勢物語』関連史跡を踏破し、地形や位置関係に着目した収集データのマッピングや3Dプリンタを用いた模型教材作成などを行っている。

「長所」… 計画性の有無に関わらず、早めの努力を厭わない「愚公移山の準備力」

「短所」… 腑に落ちた受け売りの知識で自分を大きく見せたがる「虎の威を借る狐」

以上に挙げた通り、記述項目が多いため、多くの経験や自己分析の内容が必要となる。

準備が大変であるが、その反面、面接で問われる内容が大方絞れるという利点もあるので、深く掘り下げられたときの対策を準備しておきたい。

北海道の試験の内容としては、一次試験、二次試験ともに学習指導要領からの出題が多い。それも、本文を丸暗記するだけでは不十分で、論旨を理解しておく必要がある。

しかし、去年から専門教養が指導要領からの出題のみとなり、国語科の知識を問う問題の出題がなかったため、的を絞った対策が可能である。

面接では、エントリーシートからの出題が多く、STEAM Lab には特に興味を持ってくださり、個人面談1, 2のどちらでも活動内容に対する質問があった。そこで、進めている ICT を用いた国語科教材の話や、オンデマンド授業を大学教員が容易に作成できるような設備を整えた経験をアピールできた。

このように、ほとんどすべての自治体で STEAM Lab について深く掘り下げられたため、有利に立ち回ることができた。

5. 山形県

山形県のエントリーシートに必要な事項は、「志望動機（校種・教科・科目を踏まえて）」、「山形県 教員として取り組みたいことを経験を踏まえて」、「自分の長所や適性を具体例を挙げながら（210字程度）」の三点である。

筆者の記述内容は次の通りである。

「志望動機（校種・教科・科目を踏まえて）」210字程度

私の特徴は、早めの努力を厭わない「愚公移山の準備力」にある。大学では卒業研究で『伊勢物語』の折句を認めた解釈を探究するとともに、STEAM Lab カリキュラム・マネジメント部門長として関連史跡を踏破し、ICT を用いた教材作成を進めてきた。

5月の教採説明会参加時に紹介いただいた「さんさんプラン」が少数指導などを通じて目指してきた学習の個別最適化に ICT を駆使できる中学校教員として貢献したいと考え、志望した。

「教員として取り組みたいことを経験を踏まえて」（210字程度）

個別指導塾では「メタ認知」を重視した指導に取り組み、乗り越えるべき課題を持ち前の「修飾力」で「成果

に繋がる一歩」として伝える工夫に努めた。長期的な見通しを共有しつつ短期的目標に向き合った結果、生徒に「やればできる」実感や信頼関係が芽生え、全員合格できた。

以上の経験や特徴から、PBIS などの理論に基づいた肯定的アプローチを意識した生徒指導や生活指導の実践で、学習意欲の向上や行動変容を促すとともに規範意識を育みたい。

「自分の長所や適性を具体例を挙げながら」（210字程度）

私の長所は自分や周囲に有益と信じて臆せず行動できる「衆目を意識した率先力」にある。中学時代のバスケット部の練習では長距離走で先陣を切って全力疾走し、競い合いを生み出して駅伝大会代表に選抜されるほどの持久力向上につながった。高校では、SSH の活動に熱心に取り組み、チームミーティングで議論の口火を切る役割を担った。

以上の経験や特徴から、生徒が主体性を引き出す役割のよさに気づき、冒険心を育む先駆けとして山形の教育に貢献したい。

山形県は試験の日程が他の自治体に比べてかなり遅いので、かなり準備ができた状態で試験に臨むことができた。

山形県の試験は、個人面接が二回あり、人間性や今までの取り組みを見られるようなことを問うものと、専門性や教育についての知識を問うものがあるため、自己分析のほかにも、教育時事的な知識を備えておく必要がある。

山形県では、STEAM Lab の研究内容を「大学で特に力を入れて取り組んだこと」という質問で話したり、「生徒の知的好奇心を惹く授業の工夫」として、実際に足を運んだ吉田神社では無料で入場できるのに対し、十輪寺等の史跡では有料だった経験を基に、兼好法師の無常観の思想が今にも受け継がれているのではないかと考える授業展開を提案するなど、経験に基づいた回答をした。

このように、経験を積むことで、実際の教育現場での活用方法を具体的に示すことができ、他の受験者にはないような視点からの回答ができる。

6. おわりに

受験において、教職支援課等の機関を利用することは

有効であるが、明白な目的や見通しがないと無意味である。

たとえば、「自己分析」のために他者の意見を参考にするならば、まずは自力で経験をまとめた上で、そこから見出した自分の特徴を書き出しておく。また、受験する自治体がどのような人材を求めているのか、という点についても、受験自治体の教育委員会の HP や教育振興基本計画を読んでまとめておくことが必要であろう。

教職支援課にとっても、情報がない状態からその人の特徴を見出すのは難しいだろう。先入観や理想が入った分析となる上に、他の学生と変わらない普遍的特徴を面接時にアピールすることになる。それは面接官にとっても退屈なものとなる上に、せっかく本人にしかない良さがあるのに、それを無下にすることになってしまう。

だからこそ、早くから自己分析や受験自治体の分析、実践的な練習を始めておく必要がある。

教員という職の魅力は、どんな特性がある人でも適性があるということである。必要なことは、自分の特性をどう活かし、自分の課題点とどのように向き合っていくか、というビジョンを明確に持つことである。

筆者自身、来年から教諭として勤めるという実感はほとんどなく、不安は大きい。しかし、自分を少しでも理解していることで、役立つことがあると考えると心強い。STEAM Lab での経験は、今日の GIGA スクール構想などの ICT を用いた教育や、教科横断的なカリキュラムマネジメントにおいて特に役立つであろう。

教職の現場は多忙で、新たに何かを学ぶことは難しいであろう。教員を志望する皆さんが、STEAM Lab などの今しかできない経験をたくさん積み多くの学びを得て、現場で活躍することを願う。

(2022年3月2日 受理)